

2025 World ROWING Championships

Report 6 (9/26)

9月26日(金)

いよいよ、世界選手権日本代表チームの最後のレースの日となりました。各クルー今持てる全ての力を出し切るべくレースに挑みました。

W1x Final C

スタートから各国主導権を取りに来るが日本もしっかりスピードに乗り、中国、日本、スイス、AIN、イタリアがほぼ並ぶようにして500mを通過。そこからじりじりとAINが伸び中国、イタリア、日本、スイス、少し離れてオランダと続き1000mを通過。第3クォーターもAINが少し抜けだし中国、イタリア、日本、スイスは水が開かない状態で進んだが、ここから中国とイタリアがスピードを上げAINに襲い掛かる。日本はそこからわずかに遅れ続くも5位スイス、6位オランダとの差は着実に開いてきた。

ラストクォーター、1500mでトップに躍り出た中国と追いかけるイタリアが激しく競り合いペースを上げる。日本も懸命にAINを追いつめるも差を大きく詰めることはできず4位でゴール。激しい競り合い続きだったレースに幕を閉じ全体16位で大会を終えた。



1000m付近。手前(5レーン)がW1x米川選手(トヨタ自動車)



残り約100m付近。左から、日本、AIN、スイス、中国、イタリア。



ゴール前、死力を尽くしAIN(奥)を追うW1x米川選手(トヨタ自動車)

W4- Final B

スタートからオーストラリア、カナダ、デンマークが積極的に前に出るが、日本もしっかりとレースの流れについている。500mでは、オーストラリア、カナダの順で通過するがその後はデンマーク、アイルランド、フランス、日本がほぼ並ぶようにして第2クォーターに突入。第2クォーターではオーストラリアとカナダはさらに他国との差を広げ、3位デンマークにアイルランドが迫り、わずかに遅れてフランス、日本が続く展開に。1000mを通過すると、アイルランドがデンマークをかわしオーストラリアとカナダを猛追する。日本は隣のレーンのフランスに必死に食らいつきレースの中に踏みとどまる。

ラストクォーター、日本はフランスと共にペースを上げ、先行するデンマークとの差を徐々に詰め後もう少し距離があればかわせるところまで詰めるが、惜しくも6位でゴール。全体12位ではあったものの、激しいレースの中で踏ん張り続け意義ある内容であった。



スタート直後、しっかりとスピードに乗るW4-クルー（一番手前）。



500m付近、レースの流れに食らいつくW4-クルー（一番手前）。



ゴール手前、フランス（手前から2番目）、デンマークを猛追するW4-クルー（手前：写真左から B 木野田 選手（明治安田）、2 榊原 選手（デンソーオールカリス）、3 高野 選手（関西電力）、S 鈴木 選手（NTT 東日本））

今大会は、パリ五輪で軽量級種目が五輪種目でなくなり、オープンカテゴリーのみで臨むはじめてのシーズンの総まとめとなる世界選手権でした。

決して満足のいく結果とは言えませんが、選手たちが今大会で示してくれた戦いは、今後我が国がオープンカテゴリーの中で戦っていくうえでの光明を見出すに値するものであったと感じております。

最後に今回の遠征にご協力いただいた全ての皆さまに心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



レース後のミーティングを行うW4-クルー

ご声援ありがとうございました

～2025年世界選手権日本代表選手団一同～



後列左から、原口 聖羅(コーチ)、大戸 淳之介(コーチ)、野村 幸史(トレーナー)、森山 修(チームリーダー)

前列左から、W4-榊原 春奈(デンソーオールカリス)、W1x 米川 志保(トヨタ自動車)、W4-木野田 沙帆子(明治安田)、W4-鈴木 伶奈(NTT 東日本)、W4-高野 晃帆(関西電力)